

熊野に癒やしとやすらぎの中核拠点



和歌山県が取り組む「熊野健康村構想」に沿った主要施設が、田辺市本宮町に相次いでオープンします。旅と健康、癒やしとやすらぎの拠点として、観光振興への期待もふくらむ施設です。世界遺産の地で今、新たな地域づくりがはじまっています。



「熊野古道の調査を重ねるたびに、熊野の自然の魅力に感動します」と木下課長

自ら熊野古道で調査研究を手がける木下課長は、熊野の自然のバリエーションは奥深い

「熊野古道の調査を重ねるたびに、熊野の自然の魅力に感動します」と木下課長

世界遺産の自然治癒力を最大限に生かす 「熊野で健康ラボ」開設

世界遺産に登録されたの促進を図ろうと、「熊野古道周辺には、温泉、野健康村構想」に取り組む森林、そして多くの人々を温かく受け入れてくれる地域の人々が、に「熊野で健康ラボ」が今も昔と変わらず受け継がれています。

同施設は、熊野健康村構想の一環として、熊野の癒やしと健康を通して、古道の癒やし健康効果の健康指導などを絡めた「熊野で健康ラボ」を毎月第3日・月曜に開

センター（和歌山市湊・住友金庫和歌山内）が運営します。



「森林や古道、温泉などの自然の治癒力を最大限に生かした健康プログラムを開発し、現代のよみがえりの地として魅力にあふれた熊野を、地元の人々と連携しながら広く伝えていきたい」と、和歌山健康センター・ほっとライフ課・木下藤寿課長。大していく意向です。

今後、熊野古道ウォーキングと大脳活性に関する調査や語り部向けの健康知識の研修会の開催。さらに地域で組織する健康ウォーキングサポーターの育成ほか、ラボを拠点にさまざまな事業を拡大していく意向です。